

平成21年度農林水産試験研究事前評価(平成21年10月15日開催)結果

番号	機関名	課題名	研究期間	研究内容	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方
1	農業総合研究センター	固化培地を用いた切り花の省力生産技術の開発	H22～24	切り花ハボタンやストックなどの本県主力切り花の生産コスト低減を図るため、固化培地や簡易養液栽培法を用いた省力的な栽培法を開発する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の品質市場評価、輸送コストのアップ等が想定されるので経営収支面でプラスとなるか少し疑問が残るが、この技術が成果を上げれば生産者には大いにプラスになる。</li> <li>実用性、汎用性のある技術になる可能性が認められる。根ばち形成が重要な技術となる。そこをもっと強調すべき。</li> <li>省力化につながるこの技術開発は生産者の要望に充分応えるものであるが、実用化にあたっては実需者が望む形態かどうか、また、輸送方法の課題を解決する必要があると考える。</li> <li>実現すれば省力化につながる期待は大きい。しかし、もう一工夫して、具体的に省資源化を目指した研究開発へ取り組んで欲しい。</li> <li>セルトレイが不要になることや、リサイクル可能な培地の活用など環境にも配慮した取り組みであるところを強調できないだろうか。</li> <li>根つき出荷を実現させるための流通システム、取扱手法の検討はどの程度目処がついているのか？また、リサイクルの実現性は難しいような気がしており、各花屋までリサイクルの仕組みを定着させるのは大変で、一本一本アレンジに用いることを考えると販売、リサイクルの手間はネックになるのでは？</li> <li>根つき販売は花屋でうけるかどうか？(以前の研究であったたて型の箱に切り花を入れて出荷するアイデアのようにコストもかからず目からうろこのスタイルが出てくれば良いのですが…)</li> <li>根つき出荷で品質低下を抑えた販売ができる。価格UPが見込める分と、購入意欲とのバランスはどうか？(コストUP分の価格UPを消費者は受け容れる方向に向くかどうか？)</li> <li>固化培地の単価が安くおさえられ、培地のリサイクルが実用化できれば環境にやさしく、労働時間の省力化ができ、今後に期待。</li> <li>花以外での利用が進む可能性もあると良い。ポット自体の生産がおもしろい。県内企業産であることは嬉しいことであり、このポットの進化を考えると良い。</li> <li>資材費が上昇し、単価が低下している中で、高価な固化培地を使用しているはかえって採算性があわないのでは。どこまで固化培地のコストを下げられるかが課題だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切り花生産において多くの労働時間がかかる定植作業の省力化に向けて、根鉢形成が不要な固化培地の開発と利用法について取り組む考えである。なお、固化培地の開発においては、環境への配慮やコスト面を視点に取り入れて、リサイクル可能な培地資材の検索や大きさ・形状等を検討していきたい。</li> <li>養液栽培による根つき出荷における出荷コストについては、栽植密度を高めることにより以前研究した縦箱出荷と変わらない程度に抑えられると考えているが、出荷形態やリサイクルシステム等については、市場や花屋等と意見交換しながら技術開発をすすめていきたい。</li> </ul>
2	農業総合研究センター	奥能登の地域資源・特産品目の栽培技術の確立	H22～24	奥能登定期便の量や品目の拡大を図るため、山菜の早期出荷のための簡易促成栽培法や新規導入野菜の栽培法を開発するとともに、奥能登地域の主要品目となっているカボチャの省力化・規模拡大に向けた新しい栽培法を確立する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋作カボチャにおいて収穫時期が遅れることによる気象災害、反収等で経済的メリットが出るか興味あるところです。</li> <li>多彩な内容であるが、焦点が絞られていない感がある。コンテナ栽培、山取サカキ等は、林地を痛めることはないのか？</li> <li>奥能登の農業の活性化につながる研究であるが、一方、一般消費者や加工業者等市場ニーズとリンクさせる事も大切だと考える。</li> <li>山菜、サカキ、カボチャと3種別々の課題に受け取られる。研究課題として成立させるには、共通した問題、研究テーマを明確にするべき。例えばコア技術は何なのか？これでは分からない。</li> <li>奥能登地域資源の活用は重要であるが対象作物が多く、一つ一つの作物の対策が底の浅いものになっている。対象作物をもう少し絞りこんだ方が良い。</li> <li>奥能登の活性化のためにも是非取り組んでいただきたい課題。特に、同地域の労働力の多くは高齢者であることを念頭に置いた技術開発は重要。</li> <li>同地域は、農業、漁業の兼業も多く、水産加工品もリンクさせると発展性が広がるのでは、2については県内での産業界での活用や仏花需要に応えうるものとして期待され、あまり注目されていない点だと思いましたが、実現できると良いのですが…中国産etcとのコスト競争に対抗できるでしょうか？笹については、県内に限らず他県の料理業界にもニーズはある可能性？(県内だけで生産した料を消費することになりそうなのですが…)ウラジオも早期は能登の地域おこしグループの利用がターゲットであるが、うまくいけば地域に出荷することも考えられないか？</li> <li>サカキについては空中取り木の苗を植えた方が挿し木をするより3～5年成長が早く生産量が多くなると思われる。</li> <li>サヤエンドウは霜の害を防ぐことによって生産量が多くなると思われる。</li> <li>奥能登の活性化は急務である。特に、高齢者向けに栽培作物方法を提案していただきたい。現状の品ではあまり魅力的には感じられない。他にもっとないものが…</li> <li>奥能登の活性化に向けても地域資源・特産品目の確立を目指してほしいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>能登地域の多様な山菜・野菜・葉物類の中から、高齢者でも取り組みやすい品目の選定と容易に取り組める技術開発を考えている。これら新しい技術の開発にあたっては、他業種・実需者と連携を図りながら環境・消費者ニーズ・新たな需要の掘り起こしを念頭に進めていきたい。なお、秋作カボチャの新栽培法にあたっては、独自の発想による新技術であり、実用化につなげていきたい。</li> </ul>

残りの研究課題については、6月補正予算での計上予定となっており、補正予算成立後に公表する。